

町長所信

(要旨)

今年の春は、いくつかの大きな出来事がありました。2月、3月には出羽島がアート展で全国的にも伝統の息づく島として注目を集めました。また、河内小学校

と牟岐小学校、東部保育所と西部保育所を統合しました。過疎化と少子高齢化が急速に進む中、また、南海地震の発生確率も高まる中、やむを得ない選択でした。できるだけ早く各施設の有効活用を図りたいと考えていますが、再活用には改修が必要となり、新たな財源を必要とすることから、慎重に判断を進めています。



出羽島の重要伝統的建造物群の保存調査

その中で旧牟岐小学校北校舎は、かばん預かり事業を継続し、うみがめ作業所と南阿波よくばり体験事務所を移転し、さらには阿南高専との連携事業である天体望遠鏡の製作作業所として活用すべく協議中です。旧河内小学校は、2階に民俗資料館と1階は物産館を移転してはどうかと検討しています。また、東部保育所は借地でしたので、園舎は撤去する予定ですが、西部保育所は現時点では計画はありません。鬼ヶ岩屋温泉ですが、今年7月より民間払い下げの公募をしています。いまだに応募はありません。四方を尽くし、働き掛けをしています。芳しい反応は今のところありません。今後さらさら手に手を広げ、民間に情報を提供したいと考えています。

1月から牟岐町再生会議を開催してきました。今後進めるべき事業、アクションプランも一応まとまりましたので、当分の間、休止することとし、次回の開催は異業種交流会として開催し、参加者の意見により今後の進め方を検討したいと考えています。再生会議での活性化のためのアクションプランとして、エコノミックガーデンの推進、保養と健康の町牟岐町としての具体的取り組みの推進、牟岐町全域の美化・公園化、空き家・空き店舗対策の推進、農林水産業の振興を挙げていきます。

特に牟岐町全域の美化・公園化では、出羽島の整備策として、重要伝統的建造物群の指定を最重要事項としています。今後出羽島が現在の住環境を維持し、日本の伝統的文化、景観を今に残す地域として保存していくためにも、また、徳島県や牟岐町の財産として後世に残していくためにも大変重要な課題であると認識しています。自立する町を目指し、町民同士争わず一致団結し、産業の創出、観光や商業の振興に取り組む必要があります。町内で新たに起業することを支援する社会的風土を作る、また、環境を整備する必要があります。諦めず粘り強く努力を続けていくこと、続けられる環境を整えることが必要です。その第一歩が出羽島の重伝建の指定だと思っています。牟岐町民としての自信と誇りを持ち、我々の子孫が愛し誇れる町、町の出身者が帰りたい町を目指し、努力を続けていくことが必要です。



解体中の旧東部保育所